

都市公園を生かしたスケートボード専用施設を

3月3日予算特別委員(建設)/さとう綾市議

世界で500万人、日本で40万人の愛好者がいるといわれるスケートボード。昨年の決算特別委員会で市はスケボーが楽しめる市内施設が8カ所と答弁していました。しかし、市の公園では西区の御殿山公園のみ。

昨年に続いてこの問題を取り上げた、さとう綾市議の質問に答えたものですが、都市公園が1740カ所と政令市でもっとも多く、「公園の一角に専用の場所を作っていただくと、ほかの目的できた市民との滑走中の接触なども防げるわけですが、公園のスケボーが楽しめる環境、設置にはどういう課題があるのか」と重ねて質問しました。

担当部長は、「一つはほかの講演利用者との接触など、安全確保としての課題、二つ目は、スケートボードがジャンプした際に発生する音の課題」があるとして、環境づくりを地域の理解を得ながら進めていくと説明しました。

さとう市議は、安全に滑ることができる環境を整備することで、愛好家など、市民にとっても良好な関係を築けるとのべ、2015年に中学生が市に要望し市が検討を約束していたスケボーパークの整備で検討状況はどうかと質問。みどりの管理担当部長は、新設、既設を問わず、「スケートボード上に適した公園の調査と、利用ルールの検討をおこない、その結果を踏まえて、整備について検討していくことになる」と答弁しました。

ボールパークへの経路地整備、市民の利便性と安全優先に

3月10日予算特別委員(まちづくり)/自家用車、シャトルバス、地下鉄利用で村上市議

日本ハムファイターズの本拠地となる北海道ボールパーク(北広島市)への移動で、多くが厚別区の新さっぽろ駅を経由すると見込まれます。村上ひとし市議は、駅周辺の整備について質問しました。

1点目の自家用車の利用では、国道274号線や南郷通の渋滞が懸念されることから、「経路の分散策がどのような検討か、課題は」と質問。坪田部長は、球団、道路管理者、道警などの検討会で、時間分散策、迂回道路への誘導による経路分散策の両面から検討を進めているとして大型案内板標識などの表示を追加、迂回道路を案内する補助看板を設置する答弁しました。

2点目にシャトルバスの発着所が「どのような機能と構造になるのか」と質問。坪田部長は、「バスの乗降機能では2台分の乗降場のほかに2台分の車両待機場を配置」と答え、そこから新たな渋滞が発生することを想定していないと説明しました。

村上市議は、市の見込みは甘く、圧倒的にシャトルバスを利用することが考えられ、駅周辺開発の発展とともに市民の利便性や安全安心の確保が優先されるべきだと迫りました。

続いて、3点目に「地下鉄ホームからのスムーズな誘導が必要、どのように対応されるのか」との質問には、「乗り換え利用者が迷わないよう、各施設間で案内サインを連携させ、内容を充実させる」と答弁しました。今後、ボールパーク完成でJR路線の利用と比較して、地下鉄とシャトルバスを連携して利用することによるメリットを市として示すことも提案しました。